

### CONTENTS

- P1 2026年 初詣雑踏警備  
全国警察空手道選手権大会を開催
- P2 第44回 中国四国支部激励会 / 【寄稿】愛知県警察機動隊を訪問
- P3 令和7年度 第44回全国警察逮捕術大会  
Member's Lounge 「中国情勢と日米中関係」国分良成氏

発行所 一般社団法人  
機動隊員等を励ます会  
〒103-0025 東京都中央区  
日本橋茅場町 3-2-10 鉄綱会館  
発行人 中村 真一  
TEL 03(5614)0710  
FAX 03(5614)0719  
http://www.hagemashi.com  
jimukyoku@hagemashi.com

# はげまし

令和8年  
2月号

For the Riot Policemen  
& Members

— No.593 —

### 八坂神社(京都)

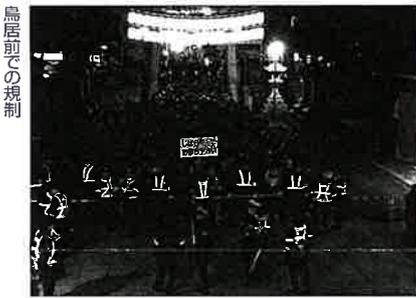


境内に向かう参拝客

## 2026年

# 初詣雑踏警備

今年、年始から寒気が強まり、広い地域で渋滞や交通機関の乱れなど雪の影響を受けた。厳しい寒さの中でも全国各地の神社仏閣には例年通り多くの参拝客が訪れ、機動隊員等は交通整理や境内での参拝客の規制、広報活動などを実施。無事に任務を完遂した。昼夜問わず雑踏警備を続けた機動隊員の皆様に改めて感謝したい。



鳥居前での規制

### 住吉大社(大阪)



大山門下の広報

### 川崎大師(神奈川)



御本殿前での広報

### 鶴岡八幡宮(神奈川)



大石段での警戒状況



人で埋まる大本堂前

### 成田山新勝寺(千葉)



大本堂前での広報

## 全国警察空手道選手権大会を開催

去る12月6日、第26回全国警察空手道選手権大会が愛知県枇杷島スポーツセンターで開催された。全国17都道府県警察から精鋭選手が参集し、男子団体組手と女子個人組手の試合が行われた。

冒頭、近藤知尚全国警察空手道連盟会長が「私たちが使う道具は日進月歩に進化しています。装備品などの道具や最新のテクノロジーの助けを借りることがあっても、やはり人間としての自分を鍛え、また、治安事象をはじめとする社会活動においては、人間として相手と向き合っていかなければならないのです。そのために、私たちが出したひとつの答えが、『空手道』です。私たちは、この『空手道』に巡り会えたことに感謝し、『空手道』を伝え続け、支え続けてくださる方々に感謝し、公共の



安全に奉仕するという熱い使命感をもって、この大会に臨みたいと思います」と挨拶された。

団体組手戦は、まず4つの予選リーグ戦が行われ、上位8位のチームが決勝トーナメントに進出した。決勝戦は警視庁と大阪府警察の対戦となったが、警視庁が最後の大将戦を制し3-2の僅差で勝利し4連覇、19回目の優勝を果たした。最優秀選手賞は決勝戦の大將戦を制した警視庁の後藤勇貴さんが授賞した。

女子個人組手は、全国から選抜された15名の選手が白熱した試合を展開した。決勝は、埼玉県警察の大橋ラムさんが、兵庫県警察の岡井沙樹さんを制して、初優勝した。

試合後、最優秀選手賞を受賞した後藤勇貴さんと大橋ラムさんには、当会法人会員のベストワールド(株)社長八尾修生氏の提供を得て、当会より菅平ゾンタクへの一泊旅行(各2名分)を贈呈した。当会から伊澤常任理事が来賓参加した。



供を得て、当会より菅平ゾンタクへの一泊旅行(各2名分)を贈呈した。当会から伊澤常任理事が来賓参加した。

### -- 今月の賛助広告会員 --

- 東海鋼材工業(株)
- 日鉄物流(株)
- 山陽特殊製鋼(株)
- 日鉄建材(株)
- 芝本産業(株)
- 新ケミカル商事(株)
- 日鉄物産(株)
- 岡部(株)

# 第44回 中国四国支部激励会

12月2日 ANAクラウンプラザホテル広島

## 機動隊員等へ感謝を伝える場

昨年につき、中国支部に四国を含めた中国四国支部としての2回目の激励会が開催された。警察幹部、広島県警察及び中国四国管区の機動隊員、当会会員の総勢約260人が集い、交流を深めた。

中国四国支部の激励会では、広島県警察音楽隊が「この世を花にするために」を演奏するなか機動隊員が入場。会員があたたかな拍手で迎え、会がスタートした。

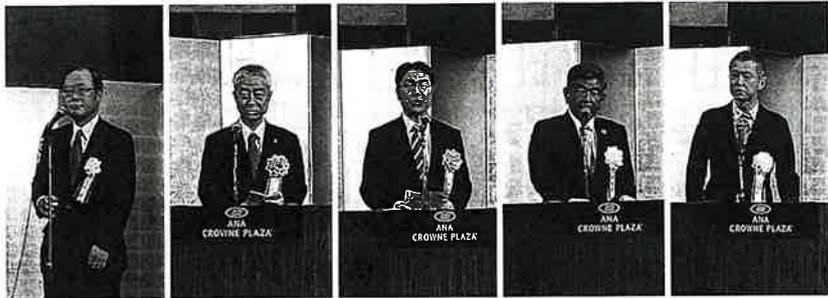
堀口悟史中国四国支部長は冒頭の挨拶で機動隊員の日頃の活動に謝意を伝え、自身が11月の広島県知事選挙で応援ボランティアに加わった際のエピソードを紹介。応援活動の終盤、広島市内の繁華街で行われた決起集会では岸田元首相らが応援演



音楽隊

説に駆け付け、要人警護の警備態勢が敷かれたと振り返った。その時に自身も手荷物検査等のセキュリティチェックを担当し「期せずして警備の一端を担うこととなり身震いする思いもあったが、同時に現場で強く感じたのは、警察関係の皆さんが我々一般の目線では気が付きにくい部分までをしっかりと警備

していたことだった。皆様の存在が現場の安心感を作り出していると感じた。本激励会は感謝の思いを直接伝えられる貴重な場。少しでも皆さんへの励ましとなり、感謝している人がいると感じていただけると時間になってほしい」と述べた。



天谷世話人 森本本部長 津田局長 中村理事長 堀口支部長



懇親の様子

来賓の津田隆好中国四国管区警察局長は、「機動隊員たちは、いつ・いかなる事態が発生しようとも治安の最後の砦」として対応できるよう日々訓練している。今後も各種事態に的確に対応し国民の期待に応えていく」と述べ、変わらぬ支援を求めた。

また、森本敦司広島県警察本部長は「南海トラフ地震や自然災害の激甚化などが懸念され、いつ何があっても機動隊員は直ちに現場に出勤し、任務完遂できるように、平素からあらゆる事態を想定した訓練を重ねている。これからも支援・協力を賜りたい」と述べた。

天谷世話人(太陽サカコ) 株式会社長は多くの困難な警備警護を担い、私たち国民を災害や犯罪から守っている機動隊員の皆様に感謝し、危険な盾とならないよう心から願っている」と述べ、乾杯の発声を行った。広島県警察音楽隊が演奏を披露し会場を盛り上げたのち、機動隊員と会員が交流を深めた。最後は全員で大きな輪になり肩を組み「この世を花にするために」を斉唱。出口智之世話人(日本製鉄(株)中国支店長)が万歳三唱を行い、閉会となった。



出口世話人



全員での斉唱

寄稿

### 愛知県警察機動隊を訪問

→ 今月の賛助広告会員 ←

(株)山文  
日鉄エンジニアリング(株)  
(株)三榮商會  
宮崎精鋼(株)  
東鋼業(株)  
日本製鉄(株)名古屋支店



<機動隊員等を励ます会 名古屋支部世話人会>

機動隊の活動内容および日頃の訓練への理解を深めることを目的として、12月3日、愛知県警察機動隊を訪問しました。見学に先立ち、長島弘人機動隊長へのご挨拶と名古屋支部世話人会との懇談の後、和やかな雰囲気のもと見学が始まりました。

当日は厳寒の中、武道場での術科訓練(柔道)や銃器対策部隊による実動訓練等、日頃の厳格な訓練の一端を間近で見学しました。整然とした動きと迫力ある訓練を通じて、隊員の皆さんが担う使命の重さと不断の鍛錬の成果を強く実感しました。装備品・車両の展示では、災害や事故対応に使用される各種資器材が紹介され、中には一人での取り扱いが困難と思われる重厚な装備もあり、人命救助にあたる隊員の皆さんの高い技能と責任感に深い感銘を受けました。これらが、いついかなる出動要請にも即応できるよう日々入念な点検・整備がなされていることにも改めて敬意を抱きました。

本見学会を通じ、名古屋支部世話人会の交流を深めると共に、大変貴重な機会となりました。訓練を披露いただいた隊員の皆さんと見学会実施にご尽力いただいた警備第一課の皆さんに心より感謝申し上げます。

今後も機動隊員等を応援する輪をさらに広げ、本会活動の一層の浸透に努めてまいります。(名古屋支部世話人会 幹事 豊田通商(株))

# 令和7年度 第44回 全国警察逮捕術大会

## より実戦的な総合対処法推進に向けて

去る11月28日、全国警察逮捕術大会が警視庁術科センターにて開催された。逮捕術とは、犯人から攻撃や抵抗を受けた場合、安全かつ効果的に犯人を取り押さえる警察独自の武術である。全国の都道府県および皇官警察から選手約550名が参加した。本大会に当会からは伊澤常任理事が観覧した。

大会は、都道府県警察の規模によって第1部・第2部・第3部に分けて団体戦が行われ、「徒手×徒手」「先鋒／女性警察官」「警棒×警棒」「次鋒／女性警察官」「警棒×警棒」(次鋒／女性警察官)、「警棒×警棒」(次鋒／女性警察官)の種目で勝敗を競った。試合の結果、大阪府警察(第1部)、岐阜県警察(第2部)、石川県警察(第3部)が優勝した。

閉会式の挨拶で大会会長の楠芳伸警察庁長官は「本日、選手諸君は大会のルールに従って試合を行ったが、実際の現場では犯人の動きにルールや決まり事はなく、警察官には、常に危機意識を持って、先々を予測しながら行動す

ることが求められる。また、犯人の人数、凶器の有無やそれに対する警察官の態勢、現場環境等、状況は様々であり、警察庁ではどのような事態にも適切に対処できるよう、逮捕術や拳銃の訓練を複合させた総合対処法の訓練などの実戦的な訓練を推進

している。諸君には、逮捕術や拳銃という枠を超えた実戦的な技能・知識の向上に努め、制圧検挙の現場における指揮官や訓練における指導者の役割を担えるよう、これからも研鑽を積むことを期待する」と述べた。



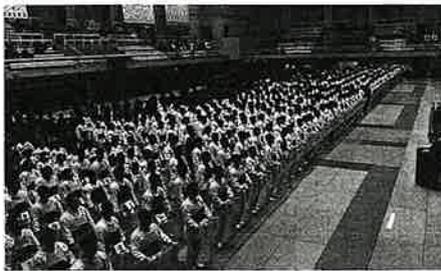
警棒×短刀



徒手×徒手



警棒×警棒



閉会式

### Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 12月の朝食講演会

日中関係の冷え込みから、日本への旅行者の減少や文化事業の中止など、さまざまな影響が出ている。今回は中国情勢と日米中関係について、前防衛大学校長であり、アジア調査会の会長を務める国分氏にお話をうかがった。

### 中国情勢と日米中関係



〈12月18日のゲスト〉  
こくぶんりょうせい  
**国分良成氏**  
前防衛大学校長、  
アジア調査会会長

#### プロフィール

1953年 東京都生まれ

**経歴**  
1981年 慶應義塾大学大学院博士課程修了後、慶應義塾大学法学部専任講師、85年助教授、92年教授、99～07年 同大学東アジア研究所長、06～07年 慶應義塾第32期評議員、07～11年 慶應義塾大学法学部部長兼大学院法学研究科委員長。12年4月～21年3月 防衛大学校長。  
現在は、慶應義塾大学名誉教授、防衛大学校長名誉教授、アジア調査会会長。  
専門は中国政治・外交、東アジア国際関係、国際政治。法学博士。

**主な著書**  
「防衛大学校」(中央公論新社、2022年)  
「中国政治からみた日中関係」(岩波書店、2017年 度檀山純三賞)  
「現代中国の政治と官僚制」(慶應義塾大学出版会、2004年度サントリー学芸賞)  
「アジア時代の検証 中国の視点から」(朝日選書、1997年度アジア太平洋賞特別賞)  
「中華人民共和国」(ちくま新書、1999年)

1. 高市首相の発言の影響  
実は私は習近平氏と同年です。私は中国研究を50年以上行い、現在では多くの仕事を若い世代に任せていますが、習近平さんもそろそろ後進に任せたい年齢頃だと思っています。

中国に暮らしたことのある人からおわかりと思いますが、中国国内ではテレビでチャンネルをいくら変えても普通のニュースは報道されません。例えば香港の火事もニュースになりません。おそらく習近平氏のもとに届くニュースも、まず紙で上がり、側近が説明する。これが情報の流れです。中国の人たちは表で言っていることと心の中で考えていることは違う。そんなことを踏まえながら、中国関係について話を進めていきます。

おそらく皆さんは、高市首相が台湾有事の際は「存立危機事態になりうる」と発言したことにより、日中関係がどうなるのが最大の心配事でしょう。ただ正直申し上げて、中国にとつて日中関係の優先順位はそれほど上位にきていません。すべては米中関係なのです。戦後史を踏まえれば、今後台湾で何か起こった時も、日中関係ではなく米中関係の影響が圧倒的に大きいはず。

今、台湾問題が少し落ち着いてきていますが、大事なことは平時の準備であり、有事に準備しても意味がないということです。来年、米中が国賓でお互いに訪問しあうことがほぼ決まっているようです。おそらく来年の秋には習近平氏がアメリカを訪問するでしょう。その数ヶ月後は2027年です。アメリカのインド太平洋軍のデービットソン司令官は公聴会で27年までに必ず台湾有事が起きると言いました。日本の現在の政策も27年をターゲットイヤーとして考えています。問題がより深刻になるのはその後ではないでしょうか。

これはミリタリーセクターの人なら誰でも知っていますが、デービットソン司令官が台湾有事を27年とした背景には、国防セクターが軍事費の削減を心配して、台湾をはじめ安全保障問題を強調したかかったという背景があります。この発言はウクライナの前身、2021年でした。そして22年にロシアによるウクライナへの侵攻が起きました。日本ではそのことで台湾有事への危機感が急激に高まりました。

2. 混乱する国際政治  
国際政治について、かつて高坂正堯先生が「価値・利益・パワーの絡み合い」と指摘していますが、これは非常に的確だと思います。今の国際政治は価値の部分で喪失しています。これまでは、例えば民主主義的な価値を守る、人権を守る、あるいは世界の平和のため、というようにある種の価値観が国際政治にありました。それが社会主義と争った時期もありましたが、そういったものが今は喪失し、パワーと利益だけになっています。

しかし、歴史の教訓からしても、この状態は続かないと考えます。権威主義と民主主義があるなかで、これまで民主主義を否定した国はほとんどありません。民主主義の根本概念は国民の利益を最優先にすることです。ただし、民主主義を正面から否定せずに、民主主義を操作して自分たちのやりやすい形

(P47～P50)

- ← 今月の賛助広告会員 →
- 大阪製鐵(株)
  - 自見産業(株)
  - 北越メタル(株)
  - 合同製鐵(株)
  - 五十鈴(株)
  - 藤田金属(株)

( P 3 からつづく )

に変えているのです。これによって権威主義国が増えつつあるのです。

今、あからさまな独裁はほとんど存在しません。しかし、操作する民主主義というものが世界にはびこりつつあります。選挙を操作したり、選挙後にマスコミを抑えたり、現在グローバルサウスが台頭していますが、民主主義を操作する形のグローバルサウスが広がってきていると思います。

中国がグローバルサウスかどうかという点、一人あたりのGDPが1万ドルを超える状況でどうなのかということになってきます。一方、インドはグローバルサウスの代表だと言っています。何れにしてもこうした情勢で、現在はどこに価値観を置くのが非常にわかりにくい。ただ私はやはり一番大事なことは民主主義の価値だと考えます。

安倍元総理が提唱した「自由で開かれたインド太平洋」という外交戦略について、私はやはり、「自由で開かれた」という部分が最も重要な概念であると思っています。これは人類が戦後求めてきた価値です。操作する民主主義が、リーダー個人の利益のためなのか、国家のため国民のためになっているのか、この部分が非常に曖昧になってきているのが今の国際政治だろうと思うわけです。

### 3 習近平体制のゆくえ

中国において習近平氏の力は強く見えるものの、実態は脆弱であるというのが私の見方です。一般的には習近平氏の力は絶大で揺らぐことはほとんどないだろうと見られていると思います。しかし、実は相当に形骸化している側面があるのではないかと。健康上どのようなかわかりません。ただしこれは半分想像の世界です。昔は香港からある程度の情報が出たりすることもありましたが、今は出てこない。証拠がないので、状況証拠を重ね

た上での直感的な考えということになります。

権力強化の習近平氏を見て、彼の毛沢東化が言われます。しかし、かつて毛沢東氏は力がなくなつたから文化大革命を実行したのです。誰も従つてくれない、組織が動いてくれない状況が起こつたため、学生を動員して革命を起こした。彼が持つていたのは権力ではなく権威でした。

今の習近平氏は、権力はあるけれど権威はないと思います。監視機構で上から抑え、コントロールしているのが今の時代だと思います。中国から来る方々に聞けば、習近平氏への不満ばかり出てきます。こんな状態がこの1、2年続いています。全てをコントロールしようとするけれど、いろいろなところに漏れが出てきているのです。

なぜこのような状態になっているかという点、経済成長が起つていないからです。日本では60万人に満たない大学卒業生数ですが、中国では毎年1200万人以上卒業しています。そのうち大学院希望は41500万人、実際に入るのが130万人くらいで、516000万人が就職できていない可能性があるります。実際は30~40%の若者がゴロゴロしているらしい。これはいろんな報告からも明らかになっていますし、中国の人からも直接そのような話を聞いています。

そういう状況で、彼の周りから側近がいなくなつてきています。習近平氏の最大の問題は後継者がいないことです。ここまでの不在現象は中国共産党史の中でも稀です。しかし、後継者が決まればすぐに引き下ろそうとする戦いが始まります。必ず下で派閥闘争になる。これが現在はまだ始まっていると私は理解しています。

そして習近平氏の最大の失敗のひとつは対米政策です。そこで今、アメリカとの関係を一生懸命立て直しているところなのです。

### 4. 米中関係一相互不信の中

#### 対話路線

つい最近、米中首脳会談がありました。現在の関税は日本と韓国に対して15%、中国は10%、台湾は20%です。米中関係において、経済安全保障では引くに引けない状態が出来上がっています。クリントン政権の1990年代、中国を国際システムに入れることによって、アメリカが中国が自国のような社会になると考えました。アメリカは時々こうした失敗を犯します。イラクもアフガニスタンもそうでした。結局それがうまくいかなかった。アメリカにとって決定打となったのは、中国が2018年に憲法を改正して習近平政権がこれからも続くことが判明した瞬間です。「中国は我々の期待を裏切つた」として米中の対立が激しくなつたのです。

しかし、経済や安全保障などで、相手を潰すことができない状態になつていくことが起きているかと思ってきました。そこで何が起きているかと、冷戦時の米ソ関係のようになつてきています。米ソは核兵器によりお互いを潰せなくなりました。だから対話が始まつたわけです。これが冷戦時代の長い平和と言われました。今、米中間では経済でお互いに潰せないかわかり、対話が始まりつつあるのです。ある程度話し合ひかなければならない、その中で勝負せざるを得ないとトランプ政権は考えていると思います。おそらく彼の任期中は、中国が台湾に武力を使うことはないでしょう。任期中になると、あと3年ありますから目標の27年を通過していくわけです。いずれにしても米中の対話が始まるという事は、アメリカを刺激しないということと、台湾問題の基本は米中関係と考えていくと、起りにくくなつていくことがわかります。

ただし、米中の対話は相互不信に基づく対話です。心からの信頼関係に基づく対話ではないけれど、とりあえず米中が対話をすれば台湾は現状維持になるということとを考えた時に、何かあつたときに最初に傷つるのは彼らですから、できるだけ現状維持が続いてくれればと思っています。

### 5 日中関係一衝突回避の模索

日中関係で大事なものは、「戦略的互恵関係」です。これは胡錦濤国家主席と安倍総理が2006年に作つたもので、具体化したのは福田政権時で、「戦略的互恵関係」の包括的推進に関する日中共同声明」が出されました。これは非常に良くできています。

習近平氏は最初こそ戦略的互恵関係を使いましたが、それから約7、8年は話していません。理由は胡錦濤氏が作つたものだからです。それが突然、数年前の岸田政権時に再び「戦略的互恵」と言い始めました。おそらくこれは、日本ともアメリカとも、関係をどうにかしなければいけないという意図があつたのだと思います。今も戦略的互恵に戻ると中国は言っています。この声明で大事なポイントは、もと「友好関係」として作つていたので「戦略的互恵関係」としたことです。これは直接、安倍元総理と話した時に聞いたことですが、「友好」とすると「二国関係」になつてしまつので、裏切れば関係はそこで壊れてしまう。日中が将来に向けてもつと前向きになるという意味で戦略的互恵関係となつたのです。特に、声明には次のような文章があります。「中国側は、日本が、戦後60年余り、平和国家としての歩みを堅持し、平和的手段により世界の平和と安定に貢献してきていることを積極的に評価した。双方は、国際連合改革問題について対話と意思疎通を強化し、共通認識を増やすべく努力すること一致した。中国側は、日本の国際連合における地位と役割を重視し、日本が国際社会で一層大きな建設的役割を果たすことを望

んでいる。Vこれはつまり日本を重視した国連改革の話です。中国がここまで賛成したということ。また八国国際社会が共に認める基本的かつ普遍的価値の一層の理解と追求のために緊密に協力するVという一文もあります。「普遍的価値」とは人権、民主主義の価値ということ。これを胡錦濤氏は認めた。当時、中国では普通の価値論争が起きました。普通のすべての国際的な文脈で、普遍的価値を認めたのはここだけ。これはある意味では民主主義的価値を認めたといいことですが、今の中国は普遍的価値を一切語りません。

戦前の上海でジャーナリストであった松本重治さんは「日米関係は日中関係」という有名な言葉を残しています。日中関係を巡って日米は戦争になつてしまいましたが、日中関係は米中関係よりも深く長い歴史の重みがあります。そういうものを忘れてはいけません。日本の最大の抑止力は国民の支持です。単純なミリタリストになつてはいけません。有事より平時が大事で、準備を平時の段階からきちんとやっているのが重要です。論理的にかつ科学的に物事を考えていかなければなりません。情緒的な対応だけは慎む必要があります。それが日本として大事なことを考えます。

### 講演後質疑応答

Q アメリカの「国家安全保障戦略2025」に、アメリカが台湾を守る方針が記載されていたことについて、どう解釈しますか。

A アメリカの関心は西半球、中南米に関心があるということが第一です。第二におそらくウクライナをはじめヨーロッパの問題、第三に中東の問題が入ってくるでしょうから、アジア太平洋は後回しです。ただしそれは中国との間に談合が成立している前提があるということ

す。何か起こつた時にアメリカが入るか入らないかがいつも問題になります。目的で起さなければ米海軍や海兵隊が入らないということはないと思います。ただそれが起こらない状況でトランプ氏は一生懸命作っているのではないかと。この直感です。ただし、いつでも何かが起こる前提で一定の準備をしておいたほうがいいことは当然です。

Q 日本のマスコミの報道についてどんな感想をお持ちですか。

A 基本的に大新聞は大丈夫でしょうが、若い人は見ていない。するとSNSの世界になりますが、SNSの世界のかんまりの情報はフェイクでしようし、偏つたものが非常に多い。問題は判断能力をどうつけるかということであつて、若い人たちがそうなるってしまつたのはある程度しょうがない。判断能力は社会に出ないかわからないこと。判断能力をつけていただくことが一番大事なので、会社でもそういう教育をぜひともしていただきたい、と思います。

編集後記  
昨年の11月から今年の1月にかけて全国警察の逮捕者大会、空手道選手権大会、警視庁の年頭部隊出動訓練、レスキュー競技大会を見学し、日ごろの厳しい訓練の成果を拝見しました。今後も様々な警備事業に堂々と立ち向かっていただくと確信するとともに、この若い隊員たちを励ましていきたいという思いを新たにいたしました。(励ます会事務局)

← 今月の賛助広告会員 →  
日本製鉄(株)  
(株)廣澤精機製作所  
光洋商事(株)  
平和農産工業(株)  
新潟鋼機(株)  
(賛助広告募集集中)